

平成16年度 尾瀬傷病事故統計

(尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター対応記録から)



財団法人 尾瀬保護財団

目 次

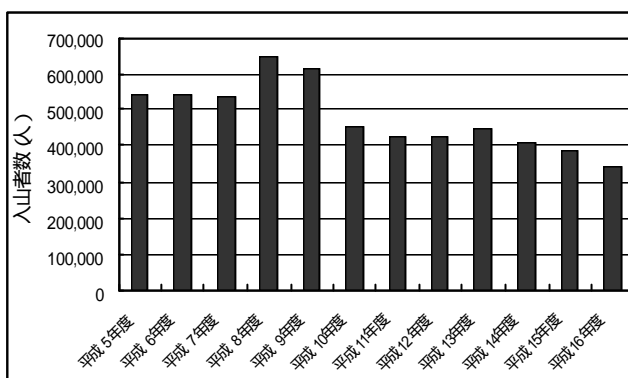
1	入山者数の状況	1
2	傷病事故の発生状況	1
(1)	年別発生状況	1
(2)	地域別発生状況	2
(3)	原因別発生状況	2
(4)	シーズン別発生状況	3
(5)	月別発生状況	3
(6)	年齢別・男女別発生状況	4
(7)	傷病者の居住地別発生状況	5
(8)	グループ人数別発生状況	5
(9)	傷病事故の通報状況	5
3	救助活動	6
(1)	救助隊出動状況	6
(2)	ヘリコプター活用状況	6

(表紙写真 サムプリントで右足脛骨折場所を固定したもの)

1 入山者数の状況

尾瀬が利用できる季節は5月大型連休後から10月中旬までであるが、同期間で環境省が各登山口に計測するセンサーを設置し、年間の尾瀬入山者数を計測している。この結果によれば、尾瀬の入山者数は平成2年度から平成7年度まで50万人台前半を推移し、平成8、9年度にはテレビ等マスコミでの頻繁な尾瀬紹介により60万人台前半に上昇した。しかし平成10年度には不景気と週末の悪天候から約46万人に減少し、その後も40万人台で推移してきたが、平成16年度には平成元年からの計測後最低の約34万2千人という結果となった。

年度	入山者数 (人)	対前年比 (%)
平成4年	539,790	104.8
平成5年	540,264	100.1
平成6年	542,058	100.3
平成7年	534,196	98.5
平成8年	647,523	121.2
平成9年	614,317	94.9
平成10年	455,409	74.1
平成11年	425,807	93.5
平成12年	428,446	100.6
平成13年	448,041	104.6
平成14年	409,942	91.5
平成15年	384,251	93.7
平成16年	341,558	88.9



尾瀬の入山者数の推移 (環境省のデータから作成)

2 傷病事故の発生状況

(1) 年別発生状況

平成16年度に尾瀬保護財団が管理する尾瀬山の鼻ビジターセンター（群馬県より管理受託）、尾瀬沼ビジターセンター（環境省より管理受託）職員が出動した傷病事故は、46件発生した。

年度	区分	発生件数 (件)	遭難者 (人)			
			死亡	行方不明	負傷	計
16年度		46	1	0	45	46

(2) 地域別発生状況

地域別では大江湿原・沼北岸での事故発生率が28.3%と最も高く、ついで尾瀬ヶ原全域が26.1%であった。また特異な事故区間としては、鳩待峠～山ノ鼻15.2%、至仏山13.0%、尾瀬沼南岸13.0%があげられた。

地域別	区分	発生件数 (件)	発生 比率	遭難者(人)			
				死亡	行方不明	負傷	計
鳩待峠～山ノ鼻		7	15.2			7	7
尾瀬ヶ原		12	26.1			12	12
三条ノ滝		0	0				
大江湿原・沼北岸		13	28.3	1		12	13
尾瀬沼南岸		6	13.0			6	6
沼山峠～尾瀬沼		1	2.2			1	1
大清水～尾瀬沼		0	0				
燧裏林道		0	0				
アヤメ平		0	0				
至仏山		6	13.0			6	6
燧ヶ岳		1	2.2			1	1
合計		46	100.0	1		45	46

(3) 原因別発生状況

傷病事故に至った原因では、木道上での転倒事故が58.7%と最も多く、木道整備区間が多い尾瀬地域の特徴を示している。その他の歩道区間での転倒事故と合わせると73.9%となり、尾瀬での傷病事故の7割強が転倒事故によることが分かった。

原因別	区分	発生件数 (件)	遭難者(人)				
			死亡	行方不明	負傷	救出	計
木道上の転倒		27			27		27
歩道上の転倒		7			7		7
病気		3	1		2		3
疲労・低体温		3			3		3
落石		0					0
道に迷い		0					0
雪崩・雪渓崩落		0					0
落雷		0					0
徒渉失敗		0					0
その他		1			1		1
不明		5			5		5
合計		46	1		45		46

(4) シーズン別発生状況

シーズン別では夏山での発生が52.2%と発生が最も高かった。

区分 シーズン別	発生件数 (件)	遭難者(人)				
		死亡	行方不明	負傷	救出	計
春山(4・5・6月)	12	1		11		12
夏山(7・8月)	24			24		24
秋山(9・10・11月)	10			10		10
合計	46	1		45		46

(5) 月別発生状況

月別発生では7月が19件(41.3%)と最も多く、次いで6月が10件(21.7%)、10月が7件(15.2%)の順であった。登山者が多い夏山に傷病事故が集中する傾向が見られた。

区分 原因別	発生件数 (件)	遭難者(人)				
		死亡	行方不明	負傷	救出	計
4月	0					
5月	2			2		
6月	10	1		9		
7月	19			19		
8月	5			5		
9月	3			3		
10月	7			7		
11月	0					
合計	46	1		45		46

(6) 年齢別・男女別発生状況

40歳代以上の中高年齢層の傷病者は30人(65.2%)で、全傷病者に対する割合が高い。傷病対応時の聞き取り不十分さから、年齢記載の無いものが多く、不明に分類される人数が多いことから、実際にはさらに中高年齢層の割合が多くなるものと思われる。

男女別の比率では、男性45.7%、女性54.3%とほぼ均等の比率となった。

区分 年代別	男 性 (人)					比率 (%)	女 性 (人)					比率 (%)	男女計 (%)
	死亡	行方不明	負傷	救出	計		死亡	行方不明	負傷	救出	計		
10代			1		1	2人						0人	2人
20代			1		1	9.5						0	4.4
30代					0								
40代			2		2	14人 66.7						16人 64.0	30人 65.2
50代			5		5		1		9		10		
60代			6		6				4		4		
70代以上			1		1				2		2		
不明			5		5	23.8			9		9	36.0	30.4
合計	0	0	21	0	21	100.0	1		24		25	100.0	100.0
比率	45.7%					54.3%							

(7) 傷病者の居住地別発生状況

遭難者の大半は尾瀬の地元3県（福島県、群馬県、新潟県）以外の県外者で、東京都・埼玉県を中心として、関東地方居住者の傷病者数が17人（37.0%）と多かった。またこの他の大都市圏居住者の傷病者も大阪府の4人があった。

区分 都道府県別	死亡	行方不明	負傷	救出	計
福島県			1		
茨城県			1		
埼玉県			5		
千葉県			3		
東京都			6		
神奈川県			2		
静岡県			1		
愛知県			1		
三重県			1		
大阪府	1		3		
岡山県			1		
愛媛県			1		
不明			19		
合計	1	0	45	0	46

(8) グループ人数別発生状況

傷病者からの聞き取り内容として記載漏れが多く、データ数が揃わなかったため、割愛した。

(9) 傷病事故の通報状況

通報状況は本人がビクターセンターへ移動しての口頭での通報が26件（56.5%）が最も多く、次いで山小屋や救助隊からの出動要請が16件（34.8%）であった。

通報別	区分	通報者（件）					計	比率（%）
	本人	家族	同行者	他人	山小屋 救助隊			
口頭	25		3	1	13	42	91.3	
携帯携帯						0	0	
電話						0	0	
アマチュア無線						0	0	
その他無線					3	3	6.5	
不明	1					1	2.2	
合計	26		3	1	16	46	100.0	
比率	56.5	0	6.5	2.2	34.8	100.0		

3 救助活動

(1) 傷病者対応時の出動状況

傷病対応記録の記載漏れが多く、データ数が揃わなかったため、割愛した。

区分 年度	発生件数 (件)	消防	救助隊	ビタ- センター	一般	合計	1件あたり 出動人員
平成16年度	46						

(2) ヘリコプター活用状況

傷病事故46件のうち7件(15.2%)にヘリコプターを依頼し、7人を搬送した。

区分 年度	依頼件数 (件)	負傷者救助 (人)	病人等救助 (人)	遺体収容 (体)
平成16年度	7	7	0	0